

まちづくり委員会行政視察概要

1 視察月日 令和7年5月15日（木）～5月16日（金）

2 視察先及び視察事項

・新潟市

日時 5月15日（木）

視察事項 （1）「レッツ・アダプト・ア・パーク！新潟市」について
（2）新潟駅周辺整備事業について

・長岡市

日時 5月16日（金）

視察事項 （3）「米百俵プレイス ミライエ長岡」整備事業について

3 視察委員

（委員長）平山浩二（副委員長）末永直（委員）松原成文、上原正裕、雨笠裕治、堀添健、高橋美里、浦田大輔、井口真美、高戸友子、吉沢章子、月本琢也

4 視察概要

（1） 「レッツ・アダプト・ア・パーク！新潟市」について

説明者：新潟市土木部みどりの政策課 主幹
新潟市土木部みどりの政策課 主査
新潟市中央区役所建設課維持係 副主査

ア 目的・効果

公園の美化・維持管理に意欲的な市民ボランティアとの協働で、公園の維持管理を実施することで、管理水準の向上と市民参画の場の拡大を図る。活動を通して市民の地域への帰属意識及び愛着心の向上に繋がり、企業にとっては地域貢献活動のPR効果が期待できる。

イ 概要

（ア）創設経緯

市民の市政参画意識の高まりから、公園・緑地の一定区域を養子に見立て、住民や企業が「里親」になり、引き受けた区域で清掃や植栽の管理を担ってもらい新しい発想のボランティア活動として、平成15年に施行し、平成16年に本格的な運用を開始した。

（イ）役割分担

里親の役割は清掃、花壇の手入れ、樹木の剪定・枝打ち及び下草刈り・除草であり、市の役割はゴミ袋などの消耗品の支給、用具の貸与及び看板設置等である。

(ウ) 活動の種類及び団体構成

WAZA！アダプトプログラムは、企業及びNPO法人等の各種団体による専門技術を生かした活動、樹木の剪定等の取組であり、MIDORI！アダプトプログラムは、小中学校の総合学習又は特別活動での除草及び清掃等の取組である。

(エ) その他

実施団体は市と合意書を取り交わし、活動届出書及び名簿を市に提出する必要がある、活動期間は合意書を取り交わした日から年度末までとなる。翌年度以降、特に申し出のない場合は自動更新となる。令和6年度の活動団体数は「WAZA！」が27団体、「MIDORI！」が9団体である。

ウ 予算と経費内訳

令和7年度予算額は4万円で、内訳は消耗品費2万円、看板設置費2万円である。令和6年度決算は、予算額5万円、決算額2万2,000円である。

エ 今後の展望・課題等

毎年度、活動報告書を市へ提出することになっているが、報告書の提出がなく活動状況を把握できていない団体が多い。予算措置もしているが、近年は執行額も少ないため、登録団体に対する支援内容のニーズ把握が必要となっている。「WAZA！」は専門技術を生かした活動と位置付けているが、日常の除草・清掃を行う団体もあることから、協力費（謝礼）を支払っている公園愛護会との棲み分け（区分）を整理したうえで、企業の社会貢献としての活用も見込んだ制度運用の検証・改善が必要である。「MIDORI！」は小中学校の総合学習の位置付けであるが、総合学習（出前授業等）はアダプト制度創設時に比べ多様化しており、学校側の受け入れ体制も限界がある。

今後、活動実態を把握するためのアンケート調査を行ったうえで、アダプト制度の検証・見直しを行い、公園愛護会制度も含めた公園維持管理全体の課題について新たな担い手や手法の検討が必要である。

※主な質疑内容等

（委員）本事業の創設の経緯について

（説明者）本事業が創設された平成15年度頃はボランティアに関する機運が高まっていた時期で、身近なボランティア活動として創設された。

（委員）本事業創設当初における公園愛護会との役割分担について

（説明者）創設当初、公園愛護会は日常の除草及び清掃を、本事業はより専門的、技術的な樹木の剪定等を想定して役割分担をしていた。

（委員）本事業と公園愛護会の担当する公園の管理方法について

（説明者）公園管理における役割がそれぞれ異なるため、1つの公園を共同で管理している事例がある。

（委員）現物支給となる清掃用具等の限度額について

（説明者）新潟市中央区役所の建設課所管における限度額は、1団体に付き年度毎に

約 5 万円である。

（委 員）剪定枝の回収方法について

（説明者）剪定枝の量が少ない場合は市が直接回収しており、量が多い場合には委託事業者へ回収を依頼している。

（委 員）作業中のけがに対する保険加入の有無について

（説明者）新潟市市民活動保険において、適用対象の範囲内であれば、補償を受けることができる。

（委 員）萬代橋のチューリップフェスティバルの継続に関する成功要因について

（説明者）プランター及び球根を市が購入し参加者に支給しており、球根から育てている。参加者が当事者意識を持って参加していることが、長期間、継続して開催できている要因と考えられる。

（２） 新潟駅周辺整備事業について

説明者：新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務所街路・連立グループ 主幹
新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務所拠点形成グループ 主幹
新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務所拠点形成グループ 主査

ア 目的

新潟駅周辺整備は、日本海側の拠点にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や立体交差道路、駅前広場等の都市基盤をはじめとした駅前周辺市街地の総合的な整備を図るものである。

イ 新潟駅周辺地区の役割及び将来像

新潟駅周辺地区の役割には、日本海側の国土軸の強化、「新潟」の拠点性の向上、新潟駅を挟んだ都心軸の形成及び公共交通の結節機能強化が挙げられる。また、将来像として、新潟空港や東北の日本海沿岸地域と連携した北東アジア交流の陸の玄関口、新潟駅を挟んだ都心軸の形成及び都市内における公共交通の結節点としての機能の充実が求められている。

ウ 事業着手前における新潟駅周辺地区の状況と課題

南北市街地の発展に不均衡が生じており、シンボリックな施設がなく陸の玄関口としての魅力に欠ける状況にあった。このため、南北市街地の一体化を図り、都市機能（商業業務・交通機能など）の強化及び集積を図る必要性和、生活道路の整備、公園、広場及び居住環境を改善する必要性があった。

また、地区内の踏切では交通混雑が慢性化して、歩行者と車両が狭い踏切を通過するため危険な状態であり、交通混雑解消や歩行者などの安全確保の観点から、鉄道と道路の立体交差化の必要があった。万代広場では安全性の確保及び交通整理に影響が出ており、バスターミナルはスイッチバック方式となっていた。このため、安全で円滑な交通処理を図るとともに、高齢者や障害者等の全ての利用者

にとって利便性の高い駅前広場にする必要があった。交通混雑の発生とともに東跨線橋沿道で有効な土地利用が図られておらず、歩道が狭く緑が少ないことから安全性及び快適性が不足していたため、鉄道横断部の交通混雑の緩和及び鉄道を挟む南北市街地の一体化を高める道路整備の必要性和、歩行者及び自転車にとって安全で快適な交通環境に改善する必要があった。

エ 整備方針・目的と事業計画概要

連続立体交差事業では踏切の除却による安全性と利便性の確保、複数の道路の立体交差化を一挙に実現するため、鉄道在来線の高架化を行うこととした。幹線道路整備事業では駅周辺地区の円滑で安全な交通環境の実現に向けて、鉄道と交差する４本の立体交差道路と出来島上木戸線（笹出線）など関連幹線道路の整備することになった。駅前広場整備事業では新潟の陸の玄関口として、また鉄道とバスなどの交通が結びつき、それぞれの乗り換えの利便性を向上させるため、駅前広場と新潟駅バスターミナル（高架下交通広場）を整備することになった。

※主な質疑内容等

（委員）再開発の結果による渋滞緩和の効果について

（説明者）線路の高架化により踏切が無くなったことや、高架下を抜ける新しい道路を作ったことで、渋滞緩和の効果は十分にあったと認識している。

（委員）用地買収について

（説明者）地権者によって事情が異なるため、各地権者の要望に応じて立ち退き先を紹介するなど支援を行い、用地買収を進めた。

（委員）新幹線及び在来線の同一ホーム事業に関する費用負担割合について

（説明者）建設費２０億円を三分の一ずつＪＲ、県及び市が負担した。維持費に関してはＪＲの費用負担となる。



（３） 「米百俵プレイス ミライエ長岡」整備事業について

説明者：長岡市中心市街地整備室

まちなか政策担当課長

長岡市地方創生推進部ミライエ長岡企画推進室

企画担当課長

ア 施設概要

「米百俵プレイス ミライエ長岡」は、長岡市が市街地再開発事業の一環として、大手通坂之上町地区に整備する長岡市の施設である。「米百俵プレイス ミライエ長岡」の基本方針は、人づくりと産業振興を関係機関等が一体となって支える地方創生の拠点であり、目指すコンセプトは、「新たな人、情報、挑戦に出会える、未来を創る場」として、時代の変化に対応した新しい学びや情報を得られる機能を導入し、次世代を担う若者や起業家をはじめとする幅広い世代が集い交流することで、新しいチャレンジの機会に出会える未来を創る場を目指している。施設には互尊文庫のほか、子どもの学びに関する機能や産業振興を図る機能などを導入予定である。平成30年度に基本計画を含む基本設計を実施し、令和元年度から令和2年度にかけて、内装の実施設計を実施した。令和5年7月22日に施設の一部が先行オープン、令和8年度に全館オープンの予定である。

※主な質疑内容等

（委員）実効性のある都市計画を具現化できている理由について

（説明者）長岡市は市民協働を掲げており、いろいろな関係者との連携を図りながら都市計画を進めている。具体的には、長岡技術科学大学において都市計画を専攻する教授等の学識経験者と意見交換を重ねたり、各地区を訪問して説明したり、商工会議所等と連携して実効性のある都市計画を実現している。

（委員）整備事業への国からの交付金等について

（説明者）都市マスタープランの策定や都市再生整備計画等を作成するなど、本事業に限らず、交付金等の確保に向け、各種対応を講じている。

（委員）中心市街地への自動車の流入規制について

（説明者）長岡市は空襲で中心市街地の約8割が焼失し、戦災復興の際に市街地整備をしており、流入規制の必要性は生じていない。なお、市街地周辺の駐車場の収容台数は、2、3年前の数値となるが約3,500台分になる。

